

ICT 海外ボランティア会会報

No.71

2017年4月4日(火)

目次

◆特別寄稿

真藤さんの人となり(2) 「父と角さん」

当会特別顧問 石井 孝氏

◆JICAの動き

JICA シニア海外ボランティア 2017 年度春募集

事務局

◆海外グラフィティ

AIの進歩と2001年宇宙の旅

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆現地便り(ミクロネシア便り3)

ミクロネシア生活アラカルト

新東京医科大学ポンペイ校医用工学教室 教授 岡田 一秀氏

◆ICT 海外ボランティア会会則

事務局

◆第28回海外情報談話会開催のご案内(再案内)

事務局

(4月19日(水)15時~17時、JTECにて、講師は橋本 了様)

(なお、5月の談話会は5月24日(水)又は17日(水)15時~17時に開催予定)

特別寄稿

真藤さんの人となり(2) 「父と角さん」

当会特別顧問 石井 孝

今回はちょっと河岸を変えての話である。石原慎太郎の「天才」以来、田中角栄氏の再評価が最近話題になっているが、真藤さんの角栄感についてご息子の真藤豊さんが次のようなコメントを残している。実に興味深い。

なお、このコメントは「天才」が発刊される大分以前に書かれたものである。



「父と角さん」

父は会社（仕事）では、時に相当の強面でもあった模様ですが、自宅では極めて穏やかな人でした。子供の頃より父と母の言い争う姿を見た事はありません。母は負けず嫌いで、何時も一生懸命生きていた人でしたが、矢張り女性ですので、時に癩癩が破裂する事も有りました。しかし、そんな時でも父は正面から相手にせず、母の気持ちが納まるまで、ゆっくりと対応していました。

自宅ではテレビはニュース以外見る事もなく、休日はゴルフに行かない時には、部屋に籠って英文書籍を読み耽り、ベートーベンを中心にクラシックを聴く、という日々しか記憶に有りません。

そんな感情の起伏を見せない父が、非常に珍しく興奮した時が有りました。

当時、権勢の頂点に在った田中角栄さんとの面談の日でした。

電電公社の総裁に就任してまだ間もない時であった、と思いますが、造船の関係で古くからの友人でもあった三光汽船のオーナー、河本敏夫先生等から、電電公社の総裁に就任するなら、角さんの所に挨拶に行かねばなりませんよ、と。

なんとか、かの佐藤秘書のルートからアポを取り付け、目白御殿に参上しました。

父は何か事が有ると、先ず私に相談、というか、私に話しながら、自分の考えを纏める、という事が多々ありました。その為に何かあると荻窪に來い、と招集されるのですが、その日は大変興奮した声で、直ぐに荻窪に來い、と。早速駆け付けた所、日頃見ない興奮さめやらない父が坐っていました。

私の顔を見るなり開口一番、「田中角栄とは凄い男だ」と。

目白御殿に三十分の面談、という約束で参上したら、いきなり角さんが「電電民営化、資本金一兆円」と、あの迫力ある顔で睨みつけたそうです。

流石の父も御肝を抜かれたそうですが、そこは父も百戦錬磨、気後れしません、咄嗟に「角さん、1兆円は多過ぎます」と。

角さんからは「それではいくらなら良いのか？」と直ぐに質問され、「七千億円」と答えた、と。電電公社の収益力、配当能力等を勘案するとその辺が妥当、と縷々説明した、と。まだ電電民営化は具体化もしていない段階ですが、その後、二時間以上に亘り、電電民営化とは何か、日本という国はどういう通信政策を目指すべきか、といった電電天下国家論を二人のみで語り合った、と。

当時の目白御殿は門前市をなす陳情団が押し掛けており、面談時間が大幅に延長で、調整に角さんの秘書団は大変だったそうです。父と角さんは北原さんとの関係から「悪い」と思われていますが、二人の間では色々な話が出ていた様で、何年か後になりますが、角さんから「国鉄総裁をやってくれないか」との話が出され、「国鉄は勘弁して呉れ」と答えたら、角さんから「真藤さんにも苦手が有るのか」と笑われたそうです。

総ては茫々たる過去のお話になりました。

しかし、田中角栄さんという政治家、毀誉褒貶は有るかも知れませんが、天下国家、日本の未来の大きな構図を描く能力は間違いなく有った、と思います。

父もその角さんの片鱗に触れ、何時迄も興奮冷めやらず、でした。あの何時も温厚な父の興奮した顔が思い出されて、思わず苦笑してしまいました。

真藤さんの語録に「**経営者に孤独はない**」というものがある。私などは、経営者は孤独ではないかと思う。真藤さんは、何事かが起こると、然るべき人を味方というか相談相手に惹きつけてしまう磁力というか何か独特の胆気を持っているように感じる。

「経営者に孤独はない」

ときどき経営学者に「企業の方向を決断する瞬間は劇的でしょう」とたずねられることがある。

劇的瞬間には悲壮感があるから、経営者がそんな瞬間をしょっちゅう経験しているとすれば、なるほど経営者というものは孤独な存在だといわれてもおかしくない。しかし劇的瞬間を伴うような決断は危険で、よい結果が出るとは思えない。

経営者には、決断すべき問題について相談にのってくれる人が山ほどいる。そしてまた衆知によって問題は解決される。そういう意味では、経営者に劇的瞬間も孤独もあるわけがない。

ただ、その責任を一人で背負いきれずに逃れようとしたり、だれかに半分持ってもらったりすれば、わびしさと孤独を味わうことになるだろう。責任を負う覚悟があれば、それで十分だ。

JICAの動き

JICA シニア海外ボランティア 2017 年度春募集

事務局

JICA シニア海外ボランティアの 2017 年度春募集への応募は 5 月 10 日(水)までです。JICA ホームページから、当会会員が応募しやすい案件を下記に抜粋しました。最近では、電気通信・情報通信に関する応募が減少の傾向にありますが、従事分野などの可能性の範囲を拡げて、奮ってチャレンジしてください。詳細は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.jocv-info.jica.go.jp/sv/index.php?m=BList>

また、4 月 30 日(日)まで全国各地で開催される JICA 主催の「体験談&説明会」にも参加されることをお勧めします。関係資料が入手でき、個別相談のコーナーも開設されます。詳細は下記のサイトをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/index.html>

区分	国名・配属先	要 請 内 容
コンピュータ技術	ミャンマー 情報通信技術研修センター	ソフトウェア分野に関する研修内容の改善及び新規コース開設のため、特定の技術に関し講師に対する実践的指導を行います。
同上	パプアニューギニア ディバインワード大学 ラバウルキャンパス	大学生、教師を対象に基礎的なコンピュータスキル(ワード、エクセル、パワーポイント、インターネットなど)の指導を行います。校内のコンピュータの保守管理、サーバー・ネットワーク構築等を同僚教師へ指導しながら、実施することも期待されています。
同上	バヌアツ 協同組合局	既存データベース内に情報を取り込む作業や整理・更新する作業等を通じて、配属先 IT 担当者がデータベースの基本的な保守管理操作を行えるようになることが期待されています。また、同システムの利用者となる各州事務所スタッフの指導も求められています。
同上	カンボジア 計画管理総局	公共事業運輸省全体の管理業務を統括する部局にて、同局職員に対し業務システムの開発計画立案と実施支援を行います。また、システム開発に必要な技術 (UNIX 系オープンソースを使用) について、プログラミング等の技術指導を行います。
同上	ジャマイカ マイコ大学	170 年以上の歴史がある教員養成大学にて、教師を目指す学生に、アニメーション及びゲームのグラフィックデザインを指導します。アニメーション、グラフィックデザインは、新しいコースのため、シラバスの作成も支援します。
同上	レソト レソト教育大学	同校の IT 環境整備について、協働を通じて助言・指導を行う内容です。幅広い活動内容ですが、ネットワークに関する経験やプロジェクトマネジメントの経験等があるとより活動に活かせることができます。
同上	ザンビア 技術・職業訓練教員 養成カレッジ	地方にある職業訓練教員養成カレッジにおいて、同僚と協力してコンピュータ講師としてカレッジ内の IT インフラ整備や、サーバのメンテナンス・管理等の業務を行います。また、コンピュータ概論の講義も実施します。
地震	ジャマイカ 国家防災庁	災害に対して脆弱な島国であるジャマイカにおいて、国レベルの震災計画や政策を技術的な観点から支援します。また、建物の震災リスク評価や助言等を行います。
建築	ベトナム 第 3 品質評価・測定・ 認定機関	公的検査評価機関にて配属先スタッフを対象に、既存建築物の危険度診断評価及び補修技術の向上を目指した支援を行います。具体的には、事務所内での座学及び現場における実践的な指導を行います。
建築設備	マレーシア 高等技術トレーニング センター (ADTEC) クママン校	職業訓練校において、ビルメンテナンスに関し現在行われている訓練内容、使用機材の見直しをしつつ、経験の乏しい講師に対し技術的指導を行います。また学生の実習先開拓、産業のニーズ把握のため、企業との関係構築強化に向けた活動が期待されています。
電気・電子機器	ガーナ ホ技術大学	ガーナ東部の地方都市にあるホ技術大学の電気・電子学科で、電子回路や PLC 等の指導を行います。また、同僚講師の技術・知識レベル向上を目的としたセミナーの開催等、実践的な実習が行えるようにするための活動が期待されています。

同上	ベトナム ハノイ工業職業短期 大学	首都ハノイにある工業職業短期大学において、電気・電子学科の自動制御分野のカリキュラム作成に関する助言や講師の能力向上支援、及び実習方法改善に係る助言を行います。
同上	コロンビア 高等専門学校 CUN	私立大学の電子工学科で、ALDEBARAN Robotics 社製 NAO を Festo Didactic 社製 Robotino に搭載し、双方を連携して作動させるプログラム作成に協力し、ロボットのプログラム開発に関するセミナー実施にも協力します。
電気・電子 設備	ミクロネシア ヤップ州立病院	ヤップ州立病院にて、管理課メンテナンス部門の現地職員に病院内の電気設備や電気機器の維持管理および修理に係る技術指導を行います。
再生可能・ 省エネルギー	コスタリカ 国立職業訓練センター 電気科	国立職業訓練センター電気科では、太陽光発電や風力発電の仕組みを理解し、太陽光パネルや風力タービン、管理設備の設置や管理方法などに関する授業と実技指導を行います。
経営管理	ベトナム 第 3 品質評価・測定・ 認定機関	競争力強化、生産性向上に向けコンサルティングを有料で行う配属機関において、コンサルティングスタッフの能力向上を支援します。SIX SIGMA、Lean Production、TPM、SQC 等による指導が期待されています。
同上	ザンビア 産業訓練センター	首都にある職業訓練校において、運営陣や教職員の計画性や協働力を高めるため、ボランティアの知識・経験を生かした助言を行い、学校運営の改善や強化、また経営体制の強化に寄与します。
同上	ザンビア 全国技術事業化センター (National Technology Business Centre)	省庁傘下の政府機関において、企業・大学・研究機関等が有する技術の活用・検討・商業化を、また一般起業家への経営指導・助言などを行ないます。あわせて職員の育成を行ないます。
同上	ザンビア リビングストーン郡ビ ジネス協会	ザンビア随一の観光都市リビングストーンに拠点を置く中小零細企業を束ねる配属先に対し、経営戦略に関する助言をするとともに、その会員となる中小零細企業に対し、経営や組織運営に関する指導や助言を行います。
品質管理・ 生産性向上	ペルー 技術革新・技術普及・ 企業サービス課	生産省の中小零細企業育成を支援する部署に所属し、これまで派遣された 3 名の SV の活動を継続する形で、企業の生産性向上、経営管理意識の改革を目指した 5S・カイゼンの普及・促進に協力します。また、OJT を通して現地指導者の育成を支援します。
同上	ウルグアイ 国家品質管理協会	配属先の同僚とウルグアイ各地で中小企業関係者に対し、品質管理改善推進セミナーを行います。また、個別に企業訪問を行い、国内中小企業の品質管理意識向上に資する助言・提案を行います。
同上	ウズベキスタン ウズベキスタン商工 会議所	首都タシケントにある商工会議所のカイゼン導入を担当している部門で、会員の中小企業を対象にカイゼンの教育研修を企画・実施すると同時にカイゼントレーナーの指導能力向上にも取り組みます。また、教育センターへの助言を実施します。
同上	ジャマイカ ジャマイカ生産性セ ンター	配属先は民間企業、公共機関などのクライアントに対し、ワークショップやセミナーを通じて生産性向上を指導する政府組織です。ボランティアは配属先職員やクライアントに生産性向上に資する指導が期待されています。

同上	コロンビア アンティオキア科学 技術センター	中小企業の生産性と品質管理能力向上のための人材教育システム(カリキュラム)の構築と既存の教材の評価と改定を主な活動とします。また、セミナーや企業における改善活動の実践を通じ、企業等を指導する専門家育成を支援します。
同上	コロンビア 商工観光省 生産 性・競争力向上局	商工観光省の重要課題の一つとされている国内企業の生産性・競争力向上支援として、企業や企業支援機関を対象としたセミナーの実施、企業への直接支援・指導及びこれら活動に関連した資料作成等を行います。
マーケティング	ウズベキスタン タシケントイスラム 大学	首都タシケントにある国立大学の国際経済関係学科で、学生・院生を対象にマーケティングを中心とした経営管理に関する講義を行います。学生の英語力に差があるため、日本企業のケーススタディーや視覚的な資料を用いたわかりやすい授業が求められる。
機械工学	ベトナム フエ工業短期大学	中部地域の観光地にある工業短期大学において、講師・学生を対象にメカトロニクス分野に関する講義・実習を行います。特に機械及び制御システムのデザイン、設計技術に関する協力が期待されています。

海外グラフィティ

AIの進歩と2001年宇宙の旅

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



AIの進歩は、著しい。人工知能と訳されるが、今や単なる暗記からひらめきまでの能力を持つものの開発段階に入ったと言われている。ここで思い出すのが「2001年宇宙の旅」に登場するコンピュータのHALである。映画でもその悪役ぶりはいかんなく発揮されているが、HALはいわば、宇宙船全体のオペレーションの監視役のAIである。しかし、とうとう最後は人間に悪さを始める。言い換えれば、人間がAIというものを駆使したつもりがいつの間にかAIが人間をコントロールしかねないほど発達してしまうという警告を3大SF作者の一人アーサー・C・クラークは発したかったのではないか。「2001年宇宙の旅」

は実は映画の方が早く完成した。それが1968年だったが、今、改めて映画を見ても作者とキューブリックという映画監督の先見性に驚かされる。

HALという名前だが、映画製作に全面協力したIBMのIをH、BをA、MをLとアルファベットを1字ずつ前にずらして命名したようだが、作者は頑固に最後まで否定したという逸話が残っている。

アーサー・C・クラークとは、スリランカ滞在中に親交があった。3Sという、Sea, Serendive, Space(海、スリランカ、宇宙)という3つのものをこよなく愛し、90歳で死ぬまでかの島を離れようとはしなかった。しばしば講演も聞いたが、いつもソ連が1957年に打ち上げた人工衛星スプートニク1号のレプリカを片手にもっていた。その頃は、多大の功績にも関わらず、CBE(大英帝国勲章)しか授与されていなかったが、最終的にはサー

の称号を得ている。「宇宙の旅」のアイデアは、もともと、ソ連邦の科学者・ツイオルコフスキー（1857年～1935年）がすでに持ちあわせていて、次のような「地球は人類のゆりかごである。しかし人類はゆりかごにいつまでも留まっていけないだろう」という名言を吐いている。スピートニク1号は、彼の生誕100年と国際地球観測年に合わせて打ち上げられたものだが、米ソの宇宙開発競争は圧倒的なソ連リードで始まったのだ。

会社の応接室には、自分と並んで映ったアーサー・C・クラークの写真と手紙が飾ってある。それをお客さんに説明するごとに、AIの急速な進歩をすでに予言していたアーサー・C・クラークの想像力に頭が下がるばかりだ。（了）

現地だより（ミクロネシア便り3）

ミクロネシア生活アラカルト

新東京医科大学ポンペイ校医用工学教室 教授
太平洋地域医学会 会長
御殿場基礎科学研究会 オセアニア支部長
岡田 一秀 Ph.D.

西太平洋のミクロネシア連邦にある、新東京医科大学ポンペイ校で医用工学の教授をやっております、岡田と申します。我々のいる島は、ガーデンアイランドと呼ばれる、降雨後（にわか雨も多く、世界最多雨を記録した事も）、時々虹の出る、景色のいい所でもあります。

日本からだど、各地からの飛行時間3時間半ほどのグアムで乗り換えて、そこから1泊する形で翌朝のホノルル行きの各島着陸便に乗ると2番目の島に当たりますが、計3時間半ほどで着きます。待ち合せが悪く1日以上かかります。



そこの市街部で、医師になりたい(一部、看護師になりたい)学生に、生体医工学や、医療統計・医療現場で必要になる物理学等を自作の資料配布は欠かす事なく教えています。

大部分は、ミクロネシア連邦で開業したい、あるいは大きな病院に勤める医師、あるいは医学の研究者になりたい人達で、希望の科目で言うと、眼科・皮膚科・内科等いろいろです。自身も、シミュレーションプログラムを作ったのMRIの検査時間短縮化や、検体を持ち込んでの抗癌等、研究項目を持っておりますが、毎日が学生とのお付き合いで忙しい日々です。

また、それとも併せて2つの医療活動もやっております。



1つは、毎週末、日本時間では金曜の午後6時±3時間か土曜の午前9時±3時間頃、世界に向けて、病種や医療機械種を変えながら、既存の治療法や予防法・技術のレビュー・早期発見や機械の精度や使い勝手等の面でチャレンジの芽は無いのか、を発信すべく、コロナ第2スタジオと言う場所や、海外出張や一時帰国時にはホテルか実家から、毎月第1週と第3週は日本語で、第2週と第4週は英語で、医療ツイキャス（パワーポイントのように資料の画像も順次見られるラジオ放送）をやっております。ツイキャスは発信の通信

料がまったく無料でコミュニケーションやディスカッションのコラボ・遠隔授業なども出来てしまう、Windows →Internet explorer 下で使える便利なコンテンツです。

http://twitcasting.tv/kehua_and_kazu

また、その中で見られなかった方々のために後でも聴けるよう毎週、録画もしております http://twitcasting.tv/kehua_and_kazu/show/、私自身が工学部の通信工学科から医学部に移って来たのが1年半ほど前ですが、この医療ツイキャスはやり始めて1年3か月くらいになります。

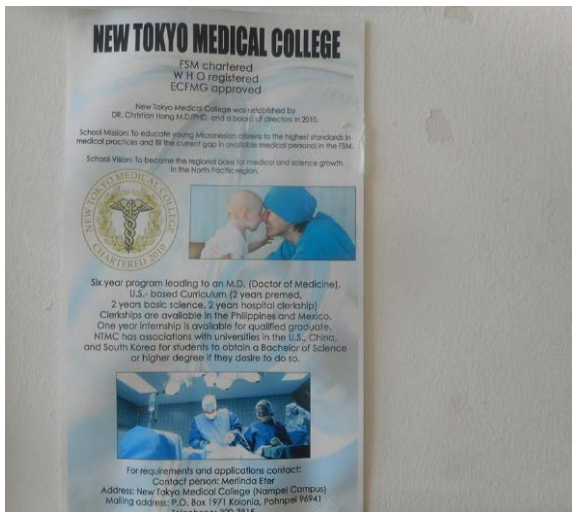
もう1つの活動は、太平洋地域はミクロネシア地域・ポリネシア地域・メラネシア地域の計20か国+10州・郡から成りますが、それらを包括する太平洋地域医学会 (Pacific Area Longevity Medical Society)

http://www.geocities.jp/rainbow_8092/PALM_s_Outline.pptx を、昨年9月に立ち上げ、日本も含め、各地域の参謀（病院の医師・大学の医学部教授・医療系の省の役人・工学部の名誉教授会長・健康に関心のある市民など）に就いて戴き、ここミクロネシア連邦も含め、各国から医学論文を集め、校正係りにもお願いし、毎月50～80ページほどの医学雑誌を、日本・ミクロネシア連邦の厚労省も含め世界100拠点に発行しております。

議論の対象は、臓器・漢方やハリ等伝統的なものから手術用のロボティクス・再生医療等最先端のものまであらゆる医療分野とし、各研究者・医師が本学会でフォーカスを当てる部位は予防・早期発見・治療・病後のQO改善まで何でもよしとしました。また、医学部も含め、医療機関付きの人間で\$30/年、市民であれば\$25、学生員で\$15/年とし、6～8ページものの論文が出た時点で、以降1年間の学会費は無料になり、その各位に対して自動的に毎月、学会費が、当面はサイト運用ですが、送られて来る構成にしました。



会長国は、今はたまたまミクロネシア地域のミクロネシア連邦がヘッドクォーターになっておりますが、全太平洋地域で学会存立のメリットを享受できるように、3年おきにミクロネシア→ポリネシア→メラネシア→ミクロネシア・・・と廻るようにしております。我々の次はどこがこの国が取るとか、何れにせよポリネシア地域ですので、ハワイにはここ3年程は協議のため3週間前後、6月に訪れるようにしています。



1年程先にはここポンペイ島で、各国の医療関係者が集まっての国際会議も開く予定です。本当はこれ以外にも、土曜の午前中にでもマイクロネシア連邦にある病院・結核等の医療研究所の人たちと集まって細胞学実験や各病気の治癒率改善の勉強会などもしたいのですが、それはまだ半年ほど先になると思われます。やはり、今は医学者として色々と動かないといけないと思ったのは、既にこの太平洋地域でも500~1000人の患者が自分の双肩にかかる中、その利便性や情報の来方の少なさと言う面で諦観を呈している医者がいたり、国から発せられWHOに上る医療統計も今1つリアリティ

が低いことを自分では何も出来ず当然のように言う医療関係者もいたこともあれば(上記2点は病死を増やす方向に貢献します)、やはり医学は工学よりも未だ未発展な分野であり、老若男女誰もがあらゆる病気で死ぬことを希望しないのにも拘らず、また医者も一生懸命やっているように見えながら、世界で年間5000万人(日本では130万人)の各種病気における病死者を減らすには並大抵な努力ではないと思ったからです。

どこの国でも、「医療?それは自分とは別モノ」と言ったり、「医学は・・・」と牽制する方もおられるのですが、そう言う方に限って、他者の医療への **improve** の **effort** を自分のものをして捉え、これらは自分達への寿命として返って来ると言う見方をしていないので、家族や自分が病気になれば慌てるの繰り返しです。我々が普段の診療や学生に誠心誠意教えることを怠れば、年間5000万人の犠牲は6000万人になりますが、出来るだけ医学部も含め、医療機関-医療機関間、市民-医療機関協調しながら、タイトな情報交換をしていけば、4000万人位には減らせ、減った分は社会貢献時間を長くしていただいての穏やかな老衰死に転化出来るのではないかと見ていますと言うことで、ラフな土台となるテンプレートは

http://www.geocities.jp/rainbow_8092/PALMS_Thesis_Template.docx ですが、工学部出身の方からも、医療・健康絡みのことであれば、論文を歓迎です。

生活面では、常夏ではありますが、シンガポールやグアムよりは湿度は低く、日陰に入っておけば、まだそう体力を消耗しないので(最高気温は7月の日中でも33℃くらいでしょうか。日が沈むと、土よりも水の面積が多い分、必ず涼しくなり、朝まで扇風機だけでも十分な時多いです)、慣れれば過ごしやすいです。地元では、私のいる島に関してはポンペイ語という言葉が好んで話され(他の500km~2000km離れた遠い島だとヤップ語・コシュラエ語・チューク語等、ポンペイ語同様、アルファベットは使いますが、別な言葉が話され、同じマイクロネシア連邦でも島が違えば会話は英語になります)、私もある程度は話せますが、英語も通じるし、地元民は訳もなしで映画を見るくらいに上手いので英語で教えています。物価はタクシー代(どこへ行っても\$1)や野菜やバナナ・マンゴー等のくだものやマグロや色の派手な熱帯魚は日本よりも安い気がします。しかし、一様に、輸入のベーコンや



電子部品や家電製品・家具は高いような気がしますので、場合によってはAmazonで注文の方が安く手に入ったり、私も一時帰国の時は梅田の紀伊國屋で専門書を洗うのと併せて大阪の日本橋に足を延ばすことは欠かせません。韓国やグアム、そして日本島に出る時はそちらの学会にも参加して議論に加わらせていただいております。



日本から来た人は誰でもそう言いますが、市民の方は概して親切で、困ってれば、無視するような事をせず、「どうしたんですか?」「お手伝いしましょうか?」とってくれる。「ああ、いつでも温暖。伝染病もなく、2~3年寿命が延びた」と言うアジア人もおれば、組織内外のセクショナリズムの概念もないようで、生活をエンジョイする面でも、また今はこの地域も他国同様、何処でも比較的高速のWiFiが飛んでおり、研究効率を高めると言う面でも、慣れれば、またどの産業においてでもその分野

の実力と人を動かす説得力さえあれば、寧ろ暮らし易いかもしれません。

尤も、客観的に見て、ちょっとした交通・短時間停電等不便で、最初から不満を言う人・諦めてる人は無理ですが。自分の場合は、まがりなりにも今こうして医療でやれているのは、嘗て電気通信の職種でJICA SVを2年間やらせて戴き、未熟なるが故に、教壇に立っての教え方や学生・他教職とのコミュニケーションで幾多の失敗をもし、研究・作業効率の高め方や目標到達への戦略的な面も含め学習できたことが大きかったと思っております。

実の処を言うと、まだまだで、反省点も日々多いのですが、今後とも宜しくお願いします。

お知らせ

ICT 海外ボランティア会会則

事務局

1. 本会の名称は、ICT 海外ボランティア会(英語名: ICT Overseas Volunteers Association、略称: ICTOV)とする。
2. 本会の目的は、①会員相互の交流・促進、②国内外企業等との交流・支援、③NTT 及び NTT-OB 会等との連携・支援、④その他、本会に有益な活動、とする。
3. 本会の事業内容は、次のとおりとする。
 - (1)会報の発行
 - (2)ホームページの掲載
 - (3)会員メーリングリストの設置
 - (4)談話会、ワークショップの不定期実施(なお、東京は集合形式、その他地域及び一部希望者は Web 会議形式による参加)
 - (5)その他、目的達成に有効と思われる事業

4. 本会は、以下の種別をもって構成する。
 - (1)会員：情報通信分野の国際協力・国際ビジネスに過去・現在携わる法人、団体、個人で、本会会員となることを希望する者
 - (2)賛同者：本会の趣旨に賛同する者
 5. 本会は、特別顧問、顧問、幹事、監事(以下、運営会議メンバという)を置く。
 - (1)特別顧問及び顧問は、本会の運営をサポートする。
 - (2)幹事は、本会の事業を推進する。幹事の互選により、本会を代表する代表幹事を選任する。
 - (3)監事は、本会の業務執行状況を監査する。
 - (4)本会は必要に応じて、事務局長、広報部長、報道部長、編集長を置く。
 - (5)運営会議メンバの任期は1年とし、運営会議メンバの協議により、次期又は必要時の運営会議メンバを選任する。ただし、再任を妨げない。
 6. 本会の運営を円滑にするため、運営会議メンバによる運営会議を開催する。
 7. 本会の事務局を(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝ビル 7階)に置く。
 8. 本会の事業年度は、毎年3月1日から翌年2月末日までとする。
 9. 本会則の変更は、運営会議メンバの承認を得ることとする。
- (付則) 1. 本会則は、2017年2月2日から実施する。
2. 本会再開時の発起人は以下のとおりである(敬称略)。

石井 孝、加藤 隆、村上 勝臣、山崎 義行、山川 博久
 3. 本会再開時の運営会議メンバは発起人が選任し、初回運営会議で運営会議メンバの承認を得た。

お知らせ

第28回海外情報談話会開催のご案内(再案内)

事務局

第28回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、奮ってご参加ください。

1. 日時 2017年4月19日(水)15時～17時
2. 場所 (一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web 会議(注)
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7階
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師 橋本 了様
(元 NTT インターナショナル社長、元スリランカ・テレコム社長)
4. 演題 「NTTにおける海外活動の変遷」
5. 定員 35名(先着順)
6. 参加費 無料
7. 申込方法 参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名をご連絡ください。
 <連絡先> 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp

(注)Web 会議へのご参加は東京首都圏以外からのご参加に限定いたします。ご氏名のほかメールアドレス及び参加時の県名(海外は国名)をご連絡ください。Web 会議への参加方法は次のとおりです。

①次のサイトで初回のみ、Zoom Client for Meetings(サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。パソコン、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。<https://zoom.us/download>

②Web 会議の案内が開始 5 分前までにメールで届くので、メールで指定された会議室に入室する。

なお、Zoom はクラウドベースの Web 会議システムです。

国際協力活動だけでなく、NTT 民営化に伴う海外事業への展開へと、急転換する渦中で奮闘された橋本様のご経験談です。乞うご期待！

(なお、5月の談話会は5月24日(水)又は17日(水)15時～17時に開催予定<別途ご案内>)

会報お読みの方々へのお願い

会報に関する皆様のご感想、ご意見、ご要望等は、会報作成のみならず、当会の運営にあたって大きな方向づけに役立ちますので、どうぞご遠慮なくお送りくださいますようお願い申し上げます。

<送付先> 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp 又は

会報担当 村上 勝臣 katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp

編集後記(編集長から一言)

地元の「郷土史研究会」に入り6年目になりました。今年は「奥の細道」の仙台から塩竈、松島、平泉、尿前の関をアマチュア講師と共に歩く計画になっています。

平均20名くらいの参加者があります。本で読むのとは全く違った発見があります。今まで、伊達家の墓巡りもやりましたが実地踏査は参加者に好評です。

会報第71号発行に何とかこぎ着けました。ご支援をいただいている関係者の方々のご賛同を得ながら、今後とも柔軟に対応してまいりますので、ご指導・ご支援のほどよろしく願いいたします。また、ご意見、ご提案などございましたら、ご遠慮なくご連絡いただければ幸いです。(宮城県 村上 勝臣)

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 村上 勝臣(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)